

兒童心理學

(第九講)

牛 島 義 友

劣等兒の問題

幼稚園、學校に於て手をやく問題の子供の一人は劣等兒、低能兒である。特に學校に於ては教師等はこの人達の爲に最も悩み、心を勞してゐる。普通國民學校の三年位になつて今迄人並に出来ると思つてゐた自分の子供が、期待に反して成績が好ましくなく、教師から注意されたりして騒ぎ出すものである。而して其場合の父兄の態度は、家庭教師をつけたり、特別の指導をするから、何さかして今までの組に置いてもらひ、兎に角卒業だけはさせて欲しいと懇願するのが普通である。特別學級等の親切な制度を設けても、父兄は餘り喜ばず、そんな處に入つて低能兒の刻印を押される事なく、子供が分つても分らなくてもよいから只卒業だけはさせてほしいと考へる。

斯る態度には充分同情す可きものがあるが、眞に子供の事を思ふならば、世間體等に捉はれずに出来るだけ早く特別の保護教育を行ふ可きである。馬鹿につける藥はないと

か、精神薄弱は治らないものである等の考へから、彼等の教育に疑を持つ人もあるが、併し教育によつて、彼等の能力の足りない處を補ひ、彼等の不幸をくひ止める事はいくらでも出来る。彼等は智能が低いただけでなく、それが原因して、劣等感を持つたり、歪められた性格、狭い世界に住む様になり、益々社會生活から取殘され、敗殘者になつてゐる。彼等に少しでも自信を與へてやるならば、斯る性格的な禁壓から解放されて、自分の能力だけは自由に發揮出来る、今までより遙かに幸福な生活に移る事が出来る。愛育研究所で特別幼稚園を設けてゐるが、其結果は極めてよく、其卒業生は今國民學校に於て必しも劣等生とならず、中位の成績で、愉快な學校生活を續けてゐるものもよくある。

故に劣等兒や低能兒に對しては頭から匙を投げてかゝらずに、常に同情を持つて指導する必要がある。尤も低能兒(精神薄弱兒)の教育の爲には特別な教育を経験を持つた教

師が、特別の學校や施設で教育しなければ効果が上らないから、問題外として、茲では所謂劣等児の問題について考へる事としよう。

智能指數で言へば七十以下を普通精神薄弱者と言つてをるが、七十以上でも尙學校生活が巧いかず問題を起す者がある。即ち七十から九十位の者が今問題になる劣等児である。普通この程度の者は二十一％位あると言はれてゐる。斯る人達は特別學級に入れる程の事はなく、指導さへよければ、國民學校を無事に卒る事の出来る人達である。併し指導が悪いと教室の妨害者になつたり、教授に手古づつたり、或は子供自身激しい劣等感を持つたり、それが原因で不良化する事も多い、一番始末の悪い、所謂問題の子供となる者である。

學校に於ける劣等生とはこの智能指數のみによつてきまるものではなく、智能が普通であつても、他の理由から劣等生扱ひにされてゐる者も多く、又都會の選ばれた學校に於て劣等生とされる者も、田舎の學校に行けば中位の成績を樂にされる事も多い。普通田舎の子供の智能指數の平均は八十五から九十位と考へられるから、都會の八十は劣等児であるが田舎では普通となる勘定である。尤も都會の八十の子供は充分磨かれ教育された八十であり、田舎の子供は荒けずりであつたり、發達が阻害されて示す八十である

ので、同一に取扱ふ事は許されないが。

都會の學校に於て所謂劣等生の生ずる原因はどんなものであらうか。今教師の報告による原因を示す次の如くなる。この原因は必ずしも正しい原因と言ふ譯ではなく、眞の原因は他に在る事もあらうが、一應教師の判斷による原因をみよう。(之は米國の調査で七五三一名の落第生に於て行つた。尙二個以上の原因がある場合もあるので、百分率の合計は百とはならない)。

原因	百分率	原因	百分率
學習が極めて遅い	三六・七	家庭不良	一〇・〇
勤勉さ、注意を缺く	三五・五	病氣以外の缺席	八・五
學費不足	二二・五	不健康	五・二
轉校	一七・八	視力不充分	二・三
病氣缺席	一六・七	其他の身體的缺陷	二・一
言語の相違	一三・〇	言語失陷	一・八
智能缺陷	一二・九	聽力缺陷	一・〇
未成熟	一二・七		

この原因の中、言語の相違等は日本内地の場合には常嵌まらないものであるが、其他の點では參考になるかと思ふ。之等の原因を纏めてみるに、子供に關した原因と、學校に關した原因と家庭環境に關した原因に分ける事が出来る。これ等について詳しく考察する。

一 子供に關した原因、第一は智能である。前の表の中

の學習の極めて遅いものや、未成熟等も恐らく智能が弱い爲に起つたものであらう。智能の弱い子供は特別の教育指導や努力をせぬ限りさうしても普通の子供に遅れる。今理論的に計算してみるならば、國民學校八年を卒る頃には、智能指數七十の者は五年遅れ、八十の者は三・二五年、九十の者は一・四年遅れる勘定になる。

次に身體的缺陷が屢々劣等生を作る原因となる。視力、聽力不充分、榮養不良、心臟病、結核、不具が主な原因である。故に定期的身體検査が必要である。視力、聽力が弱い事が數年間氣付かれなくて劣等な成績をこつてゐる者が、この缺陷に氣付いて適當な處置をしたら、たちまち成績が向上した様な例が屢々ある。

一、二の學科が特に出来ない爲に全體の成績が低下する事もある。例へば讀み方が出来ない爲に歴史も地理も理科も出来なくなる事がある。

性格的原因として、不良性之學業不良之が結び付く、これは何れが原因之言ふ事が言へず、成績が悪いので學校を嫌つたり怠けたりして不良になり、又不良になる此一層勉強がいやになつたりして、相互に影響し合ふものである。又内氣、怠惰、批評に反感、白晝夢、病的恐怖等の性質を持つた者は成績が悪いとも言はれる。

要領の悪い勉強の習慣、例へば一日中机にかかりついて

ゐる、絶えず注意を集中する事が出来ず、だら／＼と時間をこり、却つて能率が上らず、成績が低下する事がある。時間中先生の教に注意を集中し、後は遊んでゐても却つてよい成績を示す事が多い。之は單に頭がよいとか悪い爲ばかりでなく、勉強の要領の巧拙による事もある。

二 學校に關した原因

早生れの子供は初めは學習に困難を感じる。この頃の半年間の發達は後の一ケ年間の發達に匹敵する故に、早生れの子供は、特に智能が優秀でない限り、十ヶ月以上も異なる遅生れの者に對しては非常に劣つて來て、其爲に劣等視される事がある。

轉校 學校は單に一定の知識を受け取るだけの場所ではなく、同時に學友との社會生活に於て訓練される處である爲に、轉校は子供の學校生活を著しく混亂させる。特に學期途中の轉校はいけなない。轉校の結果新しい學校を厭つたり、先生になつかなくて勉強が出来なくなる事も多い。又學課の進歩が異り、一ヶ月分以上も未知の部分がある子供には非常な困難感を與へて、それ以後の學習がよく出来なくなる事も多い。

缺席勝ちな子供も成績が低下するのが一般である。體が弱くて缺席勝ちな場合は、缺席の爲に授業に遅れるばかりでなく、病身の爲に氣力少く餘り勉強する事が出来なくて

成績が益々悪くなる。

三 家屋に關した原因 家庭の經濟狀態に成績は關係がある。家の經濟狀態に子供の智能にも關係がある。屢々言はれるが、成績には一層強く影響する。貧困者の中から極めて優秀な成績をあげる者もあるが、一般には成績悪く、ブーゼマンの研究では親が失業した爲に子供の成績が低下した事實等があげられてゐる。

以上の諸原因によつて成績不良な劣等児が出來て來る譯である。故に其對策としては唯補習教授をやつたり、家庭教師をつけさへすればよいと簡單に考へず、先づ原因を明かにし、それに對應した指導法を講じなければならぬ。智能が原因である場合は上述の補習や家庭での教育が有效であるが、この場合無闇に鞭撻して子供に一層劣等感を持たせる様な事が無い様に力め、少しでも自分に自信を持たせる必要がある。自信がないとやつてみようとの努力も湧かず、積極的に勉強しない。智能の弱い子供には努力が何より必要なのであるから、この努力の源である自分に對する自信をつけてやる事が必要である。

身體に缺陷があつたり病弱なものは自分を病人或は無能力者にしてしまつて、大事をこり過ぎ、積極的に出ようこしない。又斯る者に餘り鍊成的に臨むと體を壞す事も多い。故に無理に鍛へる事は避け、先づ其疾患を治してやる

事が大事であり、又不治のものであれば、例へば不具の場合には、それに基く劣等感に第一に注目し、この劣等感をよく利用して、積極的な補償作用に轉向させる必要がある。

性格不良の者は先づ性格鍊成が必要であるが、併し之も單に意志が弱い等と言ふのでなく、夫々不平、不満、劣等感等の心的葛藤を持つてゐる譯であるから、強壓的に臨むよりも、内から溫い心でそのもつれを解いてやる態度が必要である。勉強要領の悪い者は、恐らく變つた態度をこる事が不安であり、少しでも遊んだり、怠ける此一層成績が低下するを心配して、遂に何も積極的に樂しむ事が出來ず、只ぐずぐずして日を送る様になつてしまふ譯であるから、積極的に生活指導をし、或は他人の生活を見學させた、環境を變へてやり、生活を取巻いてをる鬱陶しい空氣を除去し、心氣一轉さす要がある。